

許 可 番 号	倫-601
研 究 課 題 名	妊娠 34 週以降の胎児発育不全症例に対する分娩管理の検討
診 療 科	産婦人科
研 究 責 任 者	田中 利隆
資 料 ・ 情 報 の 管 理 責 任 者	田中 利隆
研究の目的と方法	<p>【目的】 当院で分娩した妊娠 34 週以降の胎児発育不全 (fetal growth restriction、以下 FGR) について、分娩管理と周産期予後を比較検討し、胎児発育不全 FGR 児にとって最善な分娩管理や分娩時期を決めることを目的とした。</p> <p>【方法】 妊娠 34 週以降に分娩となった推定体重-1.5SD 以下かつ出生体重 10 パーセントイル以下の、児に明らかな染色体異常や外表奇形のない FGR 症例を対象とした。そのうち既往帝王切後妊娠や骨盤位などの予定帝王切開術となった症例を除き、自然陣痛を待機した症例について、緊急帝王切開 (emergency cesarean section, 以下 e-C/S) 群、自然陣痛発来で経膈分娩となった (Uterine contraction, 以下 UC) 群、分娩予定日超過や前期破水などの適応で分娩誘発となった (induction, 以下 Ind) 群の 3 群に分け、分娩転帰を検討した。また 3 群間で児の分娩週数、Apgar score や臍帯動脈血 pH (Umbilical Artery, 以下 UmA_pH) 値を後方視的に比較検討した。更に 3 群の中で、胎児機能不全 (non-reassuring fetal status, 以下 NRFS) の適応で緊急帝王切開となった群 (e-C/S (NRFS) 群) と経膈分娩となった群 (vaginal delivery, 以下 VD 群) に分類し、2 群間で同様に分娩予後を比較検討した。</p>
利用、又は提供する 試料・情報の項目	診療記録
研 究 対 象 者	2013 年 1 月から 2015 年 9 月までの間に順天堂大学医学部附属静岡病院で周産期管理を行い、妊娠 34 週以降に分娩となった推定体重-1.5SD 以下かつ出生体重 10 パーセントイル以下の、児に明らかな染色体異常や外表奇形のない FGR 症例
研 究 対 象 期 間	西暦 2013 年 1 月 1 日から西暦 2015 年 9 月 30 日の間
利用する者の範囲	当院のみで実施

個人情報の取扱いについて	使用するデータは、個人情報特定されないよう匿名化に十分配慮して扱います。 研究成果が公表される場合にも、患者さんが特定できるような情報が公表されることはありません。
お問い合わせ先	該当する研究の対象となる患者さんで、ご自身の情報を利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。 順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科 電話：055-948-3111(代表) 研究責任者：田中 利隆